令和 8 年度 第 1 回陸前高田市立小中学校の在り方検討委員会

会議概要

1　日時

令和 8 年 6 月 29 日（月）午後 6 時～午後 7 時

2　場所

陸前高田市コミュニティホール　大会議室

3　出席者

委員

別紙（名簿）のとおり

事務局

教育長、教育次長、学校教育課長、学校教育課職員

4　内容

（1）開会

（2）教育長あいさつ

コロナ禍以降の本市の出生数減少や西側 4 校の複式学級の現状に触れつつ、地域教育の重視や大規模な改革に向けた審議をお願いしたい旨のあいさつを行った。

（3）委員紹介

（4）委員長及び副委員長の互選

・委員長　菊池満夫委員

・副委員長　石川宏委員

（5）議事

事務局から次の事項について説明を行った。

① 令和 7 年度検討委員会の振り返りおよび陸前高田市小中学校の現状等について

② 令和 8 年度スケジュールについて

③ アンケート調査概要について

④ その他

（6）その他

事務局から第 2 回検討委員会の案内及びアンケート内容の取りまとめについて説明が行われた。

（7）教育長あいさつ

小学校の在り方を重点課題とし、地域学校協働活動の相乗効果や小規模校ならではの強みに触れつつ、児童数の減少のみを理由とした統合ではなく、現場の実状把握や多様な関係者の意見を尊重しながら慎重に検討を進める旨のあいさつを行った。

（8）閉会

5　主な質疑・意見

○ 学校行事等の合同開催の成果と課題について

・石川委員　昨年度実施した学校行事等の合同開催における児童の感想について質問があった。

・事務局　児童からは最初は緊張していたものの、徐々に緊張がほぐれ、とても楽しかったという感想が多く寄せられた旨を説明した。

・松村委員・佐々木委員　合同開催における課題について質問・意見があり、初実施に伴う役割分担や事前打合せに時間を要した点や、野外活動スタッフ変更に伴う認識共有に時間を要したものの、全体としては大成功であり、課題は今後の活動に生かしていける旨が示された。

・吉田（司）委員　合同開催の実施回数制限や、年度ごとに内容を変更している理由について質問があった。

・事務局　回数制限はなく、学校の実態等に合わせて内容を変えながら実施している旨を説明した。

○ アンケート調査の実施方法および対象について

・佐藤（学）委員　市民向けと保護者向けでアンケート内容や取り方が異なるか質問があった。

・事務局　設問内容は同一であり、集計結果は分けて（市民分は年代別にも分けて）報告する旨を説明した。

・伊藤（清）委員　無作為抽出による市民アンケートの回答率の見込みについて質問があった。

・事務局　まちづくり総合計画（約 40%回収）の事例を挙げ、市民が学校の在り方をどのように考えているか現状を把握する重要性を説明した。

・佐藤（学）委員　地域への影響がないと考えている理由の選択肢も設けるべきとの意見があった。

・事務局　選択肢の内容を検討する旨を回答した。

・吉田（司）委員　70 代以上を対象に含める意義や、学校維持を求める意見が多い場合の財政面への影響について質問があった。

・事務局　多くの意見を聞いた中で世代間の意見比較を検討材料とすること、またアンケート結果のみで判断せず、子どもと保護者の教育環境を最優先に市と協議を進める旨を説明した。

○　学校現場や当事者の意見収集について

・松村委員・阿部委員　教職員や児童生徒等、当事者の意見を聞いていく必要性や収集方法について質問があった。

・事務局　収集方法を含め今後の対応を検討していく旨を回答した。